



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

宮城県 仙台市立南光台東中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：黒岩 敏幸 先生（スケート／スピードスケート）
 【出場オリンピック／アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】
- **期 日**：2024年9月13日(金)
- **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・1992年アルペールビル、1994年リレハンメル、1998年長野冬季大会の3大会に、スケート／スピードスケート競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューの説明後、スピードスケート競技のスタート姿勢に挑戦。片足を一步前に出し腰を落として低い姿勢になる。スタートの合図が鳴ったらその場で10秒足踏みを行う。その後、先生の合図で前後左右の4つの方向にジャンプをする運動を実施。合図と同じことを言いながら同じ方向または逆の方向に動く。徐々にテンポを速め、頭と体を動かす。

○主運動等



・主運動は、並んでボール送りリレーを実施（全3回）。班毎に1列に並び、後ろの人に頭上からボールを送る。送った後は列の最後尾に並び繰り返しボールを送る。折り返し地点を右回りでボールを送りながら回り、スタート位置に戻る。1回目はバスケットボール、2回目はバレーボール、3回目はどちらかのボールを選択する。途中作戦タイムを設け、ボールの渡し方、間隔の空け方 etc 考える。終了後作戦を尋ねると、遠くに投げてタイムを縮める、全員が素早く行動する、積極的にパスを出す等答える。



・運動の時間を振り返り、仲間と協力しながら声を出し、一生懸命取り組んだ結果、記録を伸ばすことができた。そのことはオリンピックバリューに当てはまり、皆はその価値を体現できたと思う。座学の時間は、自分の経験をオリンピックバリューに結び付けて話し、皆は運動の時間を振り返り、皆にとってのオリンピックバリューを仲間と一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：黒岩 敏幸 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】
- **期 日**：2024年9月13日(金)
- **ク ラ ス**：2年1組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら自己紹介。アルペールビル冬季大会で銀メダルを獲得した際、1位と0.04秒の僅差だったことは、とても悔しかったが、1位を獲った選手は、自分よりもっと多くの努力をしたのだと思うことができた。2回目に出場したリレハンメル冬季大会の前に怪我をした際は、周りのスタッフ達が全力でサポートしてくれたおかげで出場をすることができた。3回目の長野冬季大会では、自分のことよりチームのために頑張った大会でもあった。どの大会も周りの人に常に感謝する日々だった。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたことや考えたことを、オリンピックバリューに当てはめてみよう。
 発表：エクセレンス：「諦めずに最後まで取り組んだ」「ベストを尽くした」「自分で作戦考えた」「皆でたくさん話した」等
 フレンドシップ：「思いやりを持った」「声を掛けた」「相手を取りやすいボールを送った」「チームワークを大切にした」等
 リスペクト：「ルールを守りながら作戦を立てた」「他の班に敬意を払い拍手をした」「友達に感謝を伝えた」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは学校生活や日常生活の中にあることに気付いたと思う。オリンピックバリューを理解し行動することで、周りの人達のことを考えられる人間に成長する。オリンピックバリューは、スポーツに限らず、様々なことに活かすことができる。夢や目標に向かって進み中で、最初から諦めるのではなく、まずは行動に移すことを忘れないでほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：黒岩 敏幸 先生 (スケート/スピードスケート)
- 【出場オリンピック/アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】
- **期 日**：2024年9月13日(金)
- **ク ラ ス**：2年2組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・1992年アルペールビル、1994年リレハンメル、1998年長野冬季大会の3大会に、スケート/スピードスケート競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューの説明後、体育委員が前に出て準備体操を行う。スピードスケート競技のスタート姿勢に挑戦し、その場で10秒足踏みを実施。次に、先生の合図で前後左右の4つの方向にジャンプをする運動を実施。合図と同じことを言いながら同じ方向または逆の方向に動く。徐々にテンポを速くして、頭と体を動かす。

○主運動等



・主運動は、並んでボール送りリレーを実施(全3回)。班毎に1列に並び、後ろの人に頭上からボールを送る。送った後は列の最後尾に並び繰り返しボールを送る。折り返し地点を右回りでボールを送りながら回り、スタート位置に戻る。1回目はバスケットボール、2回目はバレーボール、3回目はどちらかのボールを選択する。途中作戦タイムを設け、ボールの渡し方、間隔の空け方等考える。終了後作戦を尋ねると、素早く動く、移動は速く走る、折り返し地点を回る時に小さく回る等答える。



・運動の時間を振り返り、最後まで諦めずに頑張ったことはエクセレンス、仲間と協力し合ったことはフレンドシップ、決められたルールを守って取り組んだことはリスペクトだ。全てがオリンピックバリューに当てはまる。何気なく行っている皆の言動や行動は、学校生活や日常生活の中に深く関わっている。座学の時間は、運動の時間を振り返り、オリンピックバリューを皆が今後に活かせるように一緒に考える時間にしたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：黒岩 敏幸 先生（スケート／スピードスケート）
【出場オリンピック／アルペールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会、長野1998冬季大会】
- **期 日**：2024年9月13日(金)
- **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら自己紹介と競技説明。実際に使用していたスケートシューズを披露し、シューズと刃が離れる構造になっていると説明。銀メダルを獲得した際、1位の選手と100分の4秒の差だった。その差を距離に例えると約40cmだ。金メダルを獲得できなかったことは悔しかったが、それ以上に1位の選手は、自分より努力をしていたことに敬意を払い、次は金メダルを獲れるように更に頑張ろうと思った。また、怪我をした際も、周りで支えてくれた仲間達のお陰で3大会連続出場を果たせた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたことや考えたことを、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「楽しみながら取り組めた」「話し合ったことを実行できた」「全力で取り組んだ」「最後まで諦めなかった」等
フレンドシップ：「仲間と協力できた」「思いやりを持って取り組めた」「ボールを落としも仲間でカバーし合った」等
リスペクト：「ルールを守った」「お互いの意見を尊重しながら作戦を立てた」「ボールを落とさないように気を付けた」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューはオリンピックやアスリートだけのものではなく、皆にとっても大切なものであり、身近にある。部活動や勉強等を一生懸命頑張ることはエクセレンス、友達や仲間に対して思いやりの気持ちを持つことはフレンドシップ、ルールを守り周囲の人達に感謝することはリスペクトだ。夢や目標に向かって、まず1歩踏み出す勇気を持つことを忘れずに、失敗しても諦めずに様々なことに挑戦し続けてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

